久慈農業改良普及センターだより
あぐりあす
第 287 号

令和８年３月 18 日発行
久慈農業改良普及センター
経営指導課：0194-66-9684
産地育成課：0194-66-9683
地域指導課：0194-53-4989
FAX：0194-53-5009

～ 掲 載 内 容 ～　　ページ

1 久慈地域の情報

○普及現地情報　・・・1

・農業経営を強化！久慈で「経営力向上研修会」実施
・暮らしと農地を守る仕組み勉強会～農村ＲＭＯ入門～を開催しました
・令和７年度ピーマン実績検討会を開催しました！
・令和７年度ブロッコリー実績検討会を開催しました！
・豆腐田楽が食べられる飲食店のマップを整備！
～郷土料理認知度向上を目指して～
・食品表示を見直そう！～食品表示勉強会開催～
・久慈地域において「白銀のひかり」栽培研修会を行いました！
・～岩手県肉用牛補完事業施肥検討会～
管内牧野の施肥設計検討会が開催されました！

○新たに１名の農業農村指導士を認定！！　・・・9

・令和８年２月３日に岩手県農業農村指導士認定書交付式が行われ、洋野町の清水繁勝さんが岩手県農業農村指導士に認定されました。

2 お知らせ

○令和8年度いわてグリーン農業アカデミー 受講生募集中　・・・11

・スマート農業技術を活用した有機農業など、環境保全型農業の実践に必要な知識や技術を習得する研修を実施します。

○いわてアグリフロンティアスクール 令和8年度受講生募集　・・・13

・経営感覚・企業家マインドを持って経営革新や地域農業の確立に取り組む、先進的な農業経営者等を養成します！

○いきいき農村基盤整備事業　・・・14

・国庫補助事業の対象外である小規模な地区において、地域の実情に応じたきめ細かな基盤整備を実施します。

○山火事注意　・・・15

・２月 26 日～５月 31 日は山火事防止運動月間です。
山火事を　起こすも防ぐも　私たち

○クマ注意　・・・17

・クマの目撃情報が相次いでいます。注意してください。

普　及　現　地　情　報
令 和 7 年 12 月 24 日
久慈農業改良普及センター
記 述 者　　阮　　魯瀟

農業経営を強化！久慈で「経営力向上研修会」実施

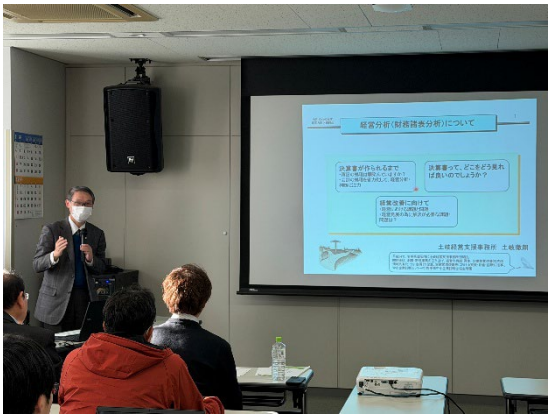
久慈農業改良普及センターは地域の農業者減少や後続者不足の現状を踏まえ、労務管理と財務諸表分析をテーマにした「経営力向上研修会」を 12 月 22 日に開催しました。当日は、農業法人経営者等 4 名を含む 10 名が、冬の寒さの中参加しました。

第一部では、普及センターの田淵技師が講師を務め、「労務管理」について解説しました。就業規則の整備や保険加入など、適切な労務管理の重要性を説明し、とくに長期的かつ安定した雇用の実現には、事前の準備と時代に即した対応が不可欠であることを強調しました。

第二部では、盛岡市の土岐経営支援事務所の土岐徹郎中小企業診断士より、財務諸表分析についてご講義いただきました。決算書の項目説明に加え、具体的事例を用いた演習を行い、参加者は実際に計算しながら理解を深めました。経験豊富な農業者だけでなく、若手職員にとっても経営者視点を養う有意義な学びとなりました。また、講義後には個別相談の時間が設けられ、参加者の疑問や悩みに対して丁寧な助言が行われました。

研修後のアンケートでは多くのご意見をいただき、普及センターでは今後も継続的な研修の実施を計画しています。

労務管理に関する法改正および今後の動向を説明する田淵技師



講義における三つのテーマを紹介する土岐中小企業診断士

普及現地情報
令和８年２月19日
久慈農業改良普及センター
記述者　東海林豊

暮らしと農地を守る仕組み勉強会
～農村ＲＭＯ入門～　を開催しました

令和８年２月17日（火）、久慈地方農業農村活性化推進協議会では、暮らしと農地を守る仕組みとして注目されている農村ＲＭＯの勉強会を開催しました。当日は、中山間地域等直接支払制度協定、多面的機能支払制度活動組織の構成員36名の参加があり、農村ＲＭＯの概要に関する講演と実践事例の紹介を行いました。

講演ではＮＰＯ法人いわてＮＰＯフォーラム２１事務局より、ＲＭＯに取り組む意義や制度の活用方法についてわかりやすく説明していただきました。

続いて行われた事例紹介では、実際にＲＭＯに取り組んでいる花巻市のたてまち地域づくり協議会が実践している農地保全、資源活用、生活支援の取組を具体的にご紹介いただきました。

終了後のアンケートでは「集落の維持にはＲＭＯの立ち上げと運営がカギとなると感じた」「学んだことを地域での活動に役立てたい」といった感想があり、自分達で地域を守る機運を醸成できたようです。久慈地方農業農村活性化協議会では、今後もこのような研修を通し地域活性化に取り組みます。

（講演のようす）

（事例紹介のようす）

普及現地情報
令和８年２月25日
久慈農業改良普及センター
記述者　佐々木　達史

令和７年度ピーマン実績検討会を開催しました！

令和８年２月20日に久慈市内で令和７年度ピーマン実績検討会を開催しました。検討会には、ピーマンの生産者、市場、関係機関など合わせて24名が参加しました。

検討会では、ＪＡから出荷・販売実績について、普及センターから戸別営農相談で収集した地域の課題と次年度の対策について説明を行いました。

また、グリーンな栽培体系技術として昨年度から導入している「バイオマス由来の原料を含む生分解性マルチ」と「点滴かん水技術」の検証結果について紹介を行いました。

久慈地域のピーマンは、栽培面積、栽培者数、単収いずれも順調に増加しており、今後が期待される品目です。

令和８年度も栽培者数が増加する見込みとなっており、今後も引き続き関係機関・団体と連携し、新規栽培者の技術定着や単収向上に向けた技術レベルの向上を図っていきます。

ピーマン実績検討会のようす

普及現地情報
令和８年２月25日
久慈農業改良普及センター
記述者　佐々木　達史

令和７年度ブロッコリー実績検討会を開催しました！

令和８年２月20日に久慈市内で令和７年度ブロッコリー実績検討会を開催しました。検討会には、ブロッコリー生産者、関係機関など合わせて18名が参加しました。

検討会では、ＪＡから出荷・販売実績について、普及センターから作型別の栽培上の課題と次年度の対策、品種比較試験の結果について説明を行いました。

令和７年度の早春まき作型は、生育初期の低温や収穫期の高温により、ボトニングや不整形花蕾などの生理障害が発生し、安定生産が課題となりました。夏まき作型では、毎年病害虫対策が課題となっていますが、生産者の防除の徹底により、今年度の病害虫の被害は少なく、単収が向上しました。

令和８年度も栽培面積が増加する見込みです。今年度の実績を踏まえて、普及センターでは作型の再確認や病害虫対策の情報提供を行い、関係機関・団体と連携してさらなる生産拡大に向けて支援していきます。

ブロッコリー実績検討会のようす

普　及　現　地　情　報
令 和 ８ 年 ３ 月 13 日
久慈農業改良普及センター
記 述 者　山本　明日香

豆腐田楽が食べられる飲食店のマップを整備！
～郷土料理認知度向上を目指して～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、久慈地域の郷土料理の認知度向上を目的として、郷土料理を提供する飲食店マップを発行しました。

今回発行したマップは、久慈地域の郷土料理の中でも、豆腐田楽をピックアップした、その名も「北三陸豆腐田楽探訪図」。普及センターが久慈管内の豆腐田楽の飲食店 14 店舗を取材し、業者委託によりマップ化しました。

本マップには、表に豆腐田楽の食べられる飲食店のマップと、店舗の特徴等詳細情報、裏に豆腐田楽のコラムが掲載されています。取材した豆腐田楽は、薬味やニンニクの辛みなどの違いがあり、特徴があるものばかりです。マップには、各店舗の豆腐田楽の写真が掲載されており、どの店舗の豆腐田楽が食べたいか目で見て考えることができます。

本マップは、今後久慈管内の道の駅や豆腐田楽店舗に配布する予定です。皆さんも、久慈地域に足を運んだ際、お手に取ってくだされば幸いです。

左▲マップ表は飲食店のマップ　A部分に豆腐田楽写真、B部分に店舗情報　　右▲裏はコラム

普及現地情報
令和８年３月13日
久慈農業改良普及センター
記述者　宮澤　薫子

食品表示を見直そう！～食品表示勉強会開催～

久慈地域産直連絡協議会では、３月10日に食品表示勉強会を開催しました。食品表示に関する各産直の出荷者やスタッフの疑問や悩みの解消、適正な食品表示の徹底についての意識向上を目的に行われ、７産直から25名が参加しました。

勉強会では、久慈保健所職員を講師に、個別の加工食品に規定されている表示のルールや、表示禁止事項など必要に応じて確認する事項について講義いただきました。「漬物」を具体例として、名称や原材料名、添加物の記載方法等、一連の表示の作成方法を学びました。また、事前に受け付けた質問への回答と質疑応答が行われ、参加者同士の疑問や悩みを共有しました。

参加者からは、「誤って認識していたことに気づけた」「具体的な食品表示の事例が参考になった」と感想があり、知識の向上につながったようでした。

普及センターは、今後も産直の食の安全・安心に対する意識向上に向け支援していきます。

勉強会の様子
参加者はメモを取りながら、熱心に聴講していました。

普及現地情報
令和８年３月16日
久慈農業改良普及センター
記述者　戸田　奈菜子

久慈地域において「白銀のひかり」栽培研修会を行いました！

久慈地域白銀のひかり栽培研究会総会及び研修会が令和８年３月 12 日に久慈市内で開催され、生産者、関係者合わせて 30 名が参加しました。

研修会では、「白銀のひかり」の特徴や栽培の留意点、令和７年度の生育状況について、普及センターから説明を行いました。

令和７年産の久慈地域の「白銀のひかり」は、栽培マニュアルに基づいた栽培管理を行うことができ、収量・品質を確保することができました。また、昨年も高温で推移したため、生産者からは「高温障害は出なかったか」などの質問が出されました。

久慈地域の令和８年産の「白銀のひかり」の作付面積と作付経営体数は増加する予定です。普及センターでは、収量・品質の確保に向けて、引き続き、関係機関・団体と連携し、栽培研究会の活動を支援していく予定です。

「白銀のひかり」の栽培管理等について説明している様子

普　及　現　地　情　報
令和８年３月16日
久慈農業改良普及センター
記 述 者　　篠﨑　　創

～岩手県肉用牛補完事業施肥検討会～
管内牧野の施肥設計検討会が開催されました！

令和８年２月26日に久慈市山形町で、JA新いわて久慈営農経済センター主催の岩手県肉用牛保管事業施肥検討会が開催されました。検討会には、各牧野の管理者や市の担当者など合わせて８名が参加しました。

検討会では、ＪＡから今年度の施肥実績について、普及センターから土壌分析結果や令和８年度の施肥設計案について説明を行いました。

また、外来雑草の防除について、各牧野の現状を踏まえて検討を行いました。

久慈地域の各牧野には主に日本短角種が放牧されます。生産者の高齢化により生産頭数は減少傾向の中、令和７年度の牧野利用戸数は前年度から概ね横ばいとなっており、地域の短角牛生産において、牧野の適正な管理は重要な役割を担っています。

今後も引き続き関係機関・団体と連携し、生産者が安心して放牧できる牧野の維持に努めていきます。

施肥設計検討会のようす

新たに１名の農業農村指導士を認定！！

令和８年２月３日に岩手県農業農村指導士認定書交付式が行われ、洋野町の清水繁勝さんが岩手県農業農村指導士に認定されました。

後日開催された久慈地域農業農村指導士等連絡会総会・研修会では、清水さんの経営状況や今後の抱負など語っていただきました。

新規認定者を１名迎えた同連絡会は農業農村指導士 10 名、青年農業士２名、計 12 名の組織となり、今後の活躍が期待されます。

清水（しみず）　繁勝（しげかつ）さん（洋野町　農業農村指導士）

【経営内容】酪農、和牛繁殖

【経歴および実績】東京都で工務店勤務後、平成 14 年に就農し、酪農経営を行っています。搾乳装置、牛群管理システムを導入し、安定した産乳量の確保や乳成分の向上に努めるほか、育成牛の公共牧野への預託や、地域内コントラクター組織による飼料用とうもろこし収穫作業の外部委託化を早くから進め、家族酪農経営における多頭数飼養のモデル的経営体となっています。

また、令和５年度からいわてくじ酪農ヘルパー利用組合組合長、陸中ホルスタイン改良同志会監事、令和７年度からＪＡ新いわて久慈乳用牛群検定組合長として活躍されています。

【将来への意向】

新技術の導入や、飼養管理水準の向上により、酪農情勢に対応した家族酪農経営を実践したい。今後も、農家間の協力や外部支援組織への作業委託などを進め、持続的な地域酪農経営を実現できるよう、関係機関や組織と検討を重ねていきたい。

岩手県農業農村指導士

〇農業農村指導士

令和８年３月現在

	市町村	氏名	営農類型	久慈地域農業農村指導士等連絡会役員
1	久慈市	長坂　亜紀子	野菜	
2	野田村	鹿糠沢　津嘉	水稲・野菜	
3	久慈市	戸﨑　武幸	菌床しいたけ	監事
4	洋野町	塩倉　康美	酪農	会長
5	洋野町	塩倉　健一	酪農	副会長
6	久慈市	中屋敷　稔	短角牛繁殖肥育一貫、和牛繁殖	事務局長
7	久慈市	大鹿糠　正行	水稲、果樹、花き、菌床しいたけ	
8	洋野町	北村　卓也	野菜	
9	久慈市	田村　憲史	酪農	
10	洋野町	清水　繁勝	酪農、和牛繁殖	

〇青年農業士

	市町村	氏名	営農類型	久慈地域農業農村指導士等連絡会役員
1	久慈市	越戸　翔	菌床しいたけ	
2	久慈市	本波　済	野菜	事務局次長

受講料
無料

令和８年度
いわてグリーン農業アカデミー

研修生募集中

環境負荷を低減する農業者を育成するため、スマート農業技術を活用した有機農業など、環境保全型農業を実践する上で必要な知識や技術を習得する、「いわてグリーン農業アカデミー」を開講します。

1　対象者
岩手県内に在住、または居住予定で、環境にやさしい農業を志向、実践する方

2　場所
岩手県農業研究センター県北農業研究所等(岩手県九戸郡軽米町大字山内23-9-1)
※　一部カリキュラムは、岩手県立農業大学校 農業研修館、宮古地区合同庁舎でリモート受講できます。

3　実施時期
５・７・８・９・11・１月の各１回（全６回）

4　募集定員・募集時期
15名・令和８年２月２日(月)～４月17日(金)

5　その他
研修は単位制とし、８割以上の単位を取得し、研修成果である「環境負荷低減事業活動実施計画」（以下「みどり計画」という。」を完成させた受講者に「修了証書」を授与します。

6　受講料
無料（昼食代や、事例研修等に係る保険代は、別途実費をいただきます）

【問い合わせ先】岩手県立農業大学校(〒029-4501胆沢郡金ケ崎町六原蟹子沢14)
TEL　0197-43-2211　メール　CE0014@pref.iwate.jp

※　本研修は、令和８年度当初予算の成立を前提として募集を行っており、県議会での審議状況等により、募集の停止、事業内容の変更等の措置を行うことがあります。
※　研修の様子を撮影し、当校ホームページやSNSなどで使用しますので、御了承の上お申込みください（お申し込みをもって御了承いただいたものとして取り扱います）。

第１回
５月27日(水)
開講式
みどりの食料
システム戦略　ほか

第２回
７月８日(水)
最新の研究動向
総合的病害虫防除
「みどり計画」作成演習

第３回
８月５日(水)
スマート農業実践事例
スマート農機実習

第４回
９月２日(水)
県内実践農家
「みどり計画」素案検討

第５回
11月４日(水)
土づくりと土壌診断の基礎
土づくり実践事例
「みどり計画」発表準備

第６回
１月15日(金)
「みどり計画」発表
閉講式

【申込方法】
「受講申込書」をメール、郵送いずれかで当校に提出してください。
E-Mail　CE0014@pref.iwate.jp）

募集要領・申込書様式

令和８年度　カリキュラム

（予定：講師の都合等により、変更することがあります）

回	内　　容		単位 数	単位 評価方法
第１回 5月27日(水) 9：45～16：00	開講式、オリエンテーション		–	–
	・　みどりの食料システム戦略（概要、制度の趣旨、政策、目標、支援措置等） ・　有機農業概論（有機農業の意義、特徴、取り組む上でのポイント等） ・　有機JAS認証制度	講義	3	出席状況及びレポート
	・　本研修受講で目指す目標と取組方向（事前課題に基づく発表）	演習	1	
第２回 7月8日(水) 10：00～15：30 ※リモート会場設置	・　有機栽培に関する技術開発の現状と研究動向 ・　環境負荷低減を図る試験研究成果 ・　ＩＰＭ（総合的病害虫・雑草管理）	講義	2	出席状況及びレポート
	・　「みどり計画」の作成演習（有機質資材の施用、化学肥料の施用減少、化学農薬の使用減少　等）	演習	2	
第３回 8月5日(水) 10：00～15：30	・　スマート農業実践事例	事例研修	2	出席状況及びレポート
	・　スマート農機の活用と操作実習（予定：自動操舵トラクタ、ラジコン草刈機など）	演習・実習	2	
第４回 9月2日(水) 10：00～15：30	・　県内実践農家（２カ所）	事例研修	2	出席状況及びレポート
	・　「みどり計画」素案検討、意見交換	演習	2	
第５回 11月4日(水) 10：00～15：30 ※リモート会場設置	・　土づくりと土壌診断の基礎及びたい肥と有機物の活用法	講義・実習	2	出席状況及びレポート
	・　土づくり実践事例	講義	1	
	・　「みどり計画」発表準備	演習	1	
第６回 1月15日(金) 10：00～15：30	・　研修成果発表会、「みどり計画」発表（PowerPointにより受講者が発表） ※この計画は「みどりの食料システム法」の認定制度である**「みどり認定」**の計画書として、計画認定申請に活用することができます。	演習	–	「みどり計画」完成状況
	閉講式		–	–

「みどり認定」を受けるメリット

① 設備投資の際の所得税・法人税が優遇されます！
② さまざまな国庫補助金の採択で優遇されます！

Iwate Agri Frontier School

いわてアグリフロンティアスクール

受講生募集

2次募集

令和8年度

経営感覚・企業家マインドを持って
経営革新や地域農業の確立に取り組む
先進的な農業経営者等を養成します！

募集期間 2026 3/14(土)→4/21(火)

※定員に達し次第締め切らせていただきます。

定員 35名

開講期間 令和8年5月下旬～令和9年2月

授業料 21,000円／1年
※ただし、現地研修等の参加費は別途必要な場合があります

開講場所 岩手大学農学部等
（盛岡市上田三丁目18-8）

受講対象者 岩手県内に居住し、大学の受験資格を有する以下の者

- ☑ 農業経営者、農業後継者、農業従事者等
- ☑ 6次産業化に取り組んでいる者、又はそれを支援している者
- ☑ 農村地域活動に携わる者

（地域振興、土地改良、担い手育成等のリーダー、またはそれらの者を支援している者等）

授業プログラム
① 農業経営科目群　② 6次産業化科目群
③ 農村地域活動科目群

条件を満たして
修了された方に
岩手大学が認定する
「アグリ管理士」資格
を授与します。

Brush up Program for professional

本教育プログラムは、文部科学省「職業実践力育成プログラム」に認定され、また、厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」の講座指定を受けました。

出願・問い合わせ先　いわてアグリフロンティアスクール運営協議会事務局（岩手大学農学部地域連携推進室内）

TEL:019-621-6231　FAX:019-621-6107
E-mail : atiren@iwate-u.ac.jp
主催：いわてアグリフロンティアスクール運営協議会（岩手大学、JAいわてグループ、岩手県）

募集要項・入学申込書はコチラ
https://iafs.agr.iwate-u.ac.jp/

いきいき農村基盤整備事業

1　事業の趣旨

国庫補助事業の対象とならない小規模な地区において、営農の継続を通じて農業・農村の維持・発展を図るため、地域の実情に応じたきめ細かな基盤整備を実施します。

2　事業内容

区分	工種	補助率等	備考
定額補助	(1) 田畑の区画拡大	6～25 万円/10a (22.5～42 万円/10a) 等	( ) は水路の変更（管水路化等）を伴う場合
	(2) 暗渠排水	10.5～19 万円/10a	吸水渠(暗渠)の間隔が 10m 以下の新設
	(3) 湧水処理	20.5 万円/100m、18.5 万円/100m	表土扱い有り、無し
	(4) 畑地かんがい施設	29 万円/10a、18.5 万円/10a 等	樹園地、樹園地以外等
	(5) 土層改良	26 万円/10a、23.5 万円/10a 等	客土、除礫等
	(6) 耕作放棄防止	2.5 万円/10a、3 万円/10a	発生防止、土壌改良
	☆ (7) 更新整備	12.5 万円/10m、22 万円/10m 等	用水路、排水路等
	(8) ｽﾏｰﾄ農業普及啓発・試行支援	20 万円/地区	先進地研修費
		60 万円/地区	スマート農業機器レンタル
定率補助	(9) 農業用用排水施設	事業費の 50% (55%)	農業用用排水施設の新設、廃止又は変更（地下かんがいシステムを含む）
	(10) 暗渠排水	事業費の 50% (55%)	暗渠の新設又は変更、補助暗渠
	(11) 土層改良	事業費の 50% (55%)	客土、混層耕、除礫、心土破砕及び土壌改良
	☆(12) 区画整理	事業費の 50% (55%)	農用地の区画形質の変更
	(13) 農作業道等	事業費の 50% (55%)	農作業道・進入路等の新設、更新
	☆(14) 農用地の保全	事業費の 50% (55%)	(9)～(13) 以外の農用地の改良又は保全のための必要な事業
	(15) ｽﾏｰﾄ農業導入支援	事業費の 50% (55%)	GNSS 基地局の新設・更新、自動操舵システム、自動給水栓、ロボット草刈機等の先進的省力化技術の導入
	(16) 特認事業	事業費の 50% (55%)	知事が特に必要と認めるもの

※1　☆印の網掛けは令和８年度予算から新たに追加【新規】　　※2　定率補助の(　)は、中山間地域に係る補助率

3　事業要件

事業費 200 万円未満、受益者２者以上

4　事業実施主体

市町村、土地改良区、農地中間管理機構、農地所有適格法人、多面的機能支払交付金の活動組織等

5　補助率・負担区分

・２の(1)～(8)　：　定額補助
・２の(9)～(16)　：　定率補助　＜県 50% (55%)、市町村・受益者等 50% (45%) ＞
※（　）書きは中山間地域の場合

6　事業実施期間

令和２年度～令和 11 年度

7　担当課

県北広域振興局 農政部 農村整備室へ お気軽にお問い合わせください。
（TEL　0194-53-4988）

小さなその火が森を消す・・・

令和6年岩手県の林野火災の原因

野焼き・たき火	58%
火入れ	9%
放火(疑い含む)	6%
火遊び	3%
たばこ	3%
その他	6%
不　明	15%

※令和6年林野火災の原因
(県復興防災部消防安全課調べ)

林野火災の約8割は人為的な原因で発生

ふるさとの森林や生活を守るために、
一人一人の心がけで林野火災を未然に防ぎましょう。

※CGによるイメージ画像です。

岩手県

あなたの行動しだいで林野火災は防げます！

林野火災の約8割は、人為的な原因で発生しています。

※令和6年林野火災の原因（県復興防災部消防安全課調べ）

1

林野火災警報・林野火災注意報の
発令時は、火入れ、野焼き等をしない！

2

火入れをするときは、
市町村長の許可を受けよう！

3

野焼き・たき火は、
事前に消防署に届けよう！

4

水や消火器等を準備して、
終了後は完全に消火しよう！

5

タバコの投げ捨てはやめよう！

6

火遊びはしない、させない！

⚠林野火災を発見したら、すぐに119番へ

岩手県
農林水産部森林整備課

林野火災予防について → 岩手県 林野火災対策ページ

岩手県公式 YouTube

林野火災警報・注意報について → いわて 防災情報ポータル

クマに注意！

県内各地にクマ出没中！

人里（ひとざと）で

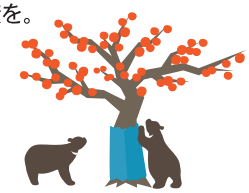
クマがあなたのすぐそばに…
人里にクマを寄せ付けない対策を

農地で 農地は電気柵で囲いましょう

クマ対策には電気柵が有効です。また、規格外で廃棄した作物も放置せずに処分しましょう。

家の周りで 実のなる樹木は要注意

クリやカキなど実のなる庭木は、早期に実をもぎ取る、伐採する、トタンを巻く、電気柵で囲うなどの対策を。



家の周りで 人間の生ごみはクマのエサ

コンポストやゴミもクマを引き寄せます。クマが出没しやすい場所では利用を控えるなどの対策を。

集落で 草刈りで見通し良い環境を

見通しが良くなると隠れる場所がないので、クマが通りにくくなります。環境を整備し近付きにくくなる対策を。

クマに出会ってしまったら…

- 背を向けて走って逃げない
- 目を離さずに静かにゆっくり後ずさる
- 親子グマに注意
- 風向きに注意して撃退スプレーを使う
- クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

クマは顔や頭を狙ってきます

岩手県では「ツキノワグマ被害防止対策」をホームページに掲載しています。

ツキノワグマによる人身被害状況・出没状況（岩手県）

普段からツキノワグマの情報をチェックして対策しましょう。

岩手県

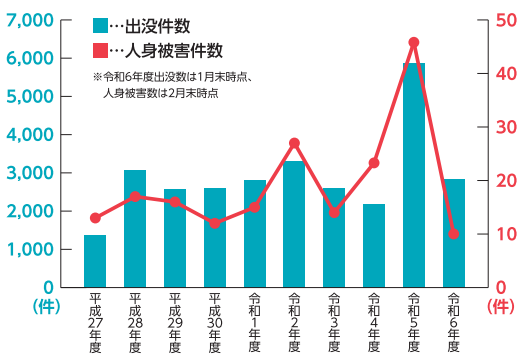
ツキノワグマの出没データ

岩手県には、ツキノワグマが県内全域に約3,700頭（令和2年度末時点）生息しています。

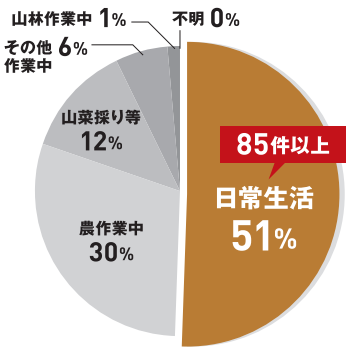
近年、中山間地域の人口減少や高齢化による耕作放棄地の増加等に伴いクマの生息域が拡大し、人身被害や農作物被害などによる人とのあつれきが増大しており、出没件数も増加傾向にあります。

また、人身被害は、クマの本来の生息地である山間部での発生が6割となっていますが、近年は人里での発生が増加傾向にあります。なお、山間部での事故は、山菜採り等（キノコ採り、釣り含む）が約6割を占め、人里では日常生活（散歩等）や農作業中の発生となっています。

クマの出没件数及び人身被害件数 ［平成27年度～令和6年度］



人里での被害発生状況 ［平成15年度～令和6年度］



	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
出没件数（件）	1,370	3,070	2,575	2,612	2,806	3,316	2,602	2,179	5,877	2,848
人身被害件数（件）	13	17	16	12	15	27	14	23	46	10
人里での人身被害（件）	5	3	6	2	5	16	9	8	29	5

※令和6年度出没数は1月末時点、人身被害数は2月末時点

ツキノワグマの特徴

体　長	100～150センチメートル
体　重	30～100キログラム
臭　覚	敏感
聴　覚	優れている
視　力	あまりよくない
性　格	子連れの母グマは、子グマを守ろうと攻撃的行動をとることが多いため注意
特　技	木登り、水泳、走るのも速い
食べ物	ドングリやクリ、山菜やタケノコ、昆虫、ヤマブドウなど
習　性	急に背中を見せて走って逃げると反射的に追いかけてくるといわれている（逃げるものを追いかける）

こんな特徴も

クマは小さな音でも聞き分ける能力（聴覚）、イヌのようにわずかなニオイをかぎわける能力（嗅覚）を備え、優れた運動能力を持っています。時速40km以上で走ることができるほか、泳ぐのも得意です。

クマのことを知る・共有する

クマと共生するため、岩手県では
ツキノワグマ管理検討協議会を設置しています。

ツキノワグマの保護・管理を的確に実施するため、学識経験者や関係団体等で構成するツキノワグマ管理検討協議会を毎年開催しています。協議会では、管理計画の評価・見直し、捕獲上限数の設定、生息数モニタリングの評価・分析等を行っています。

ツキノワグマ管理検討協議会

クマを目撃したら
お住まいの市町村へ
通報をお願いします

クマやその対策に関する正しい情報を周りの人と共有しましょう！

岩手県

お問合せ　環境生活部自然保護課（TEL.019-629-5371）
協　力　岩手大学ツキノワグマ研究会

電子メールを活用した農業情報のサービスを行っています

久慈農業改良普及センターでは、農作物技術情報、台風や気象災害などへの注意情報、病害虫に関する情報、スマート農業に関する情報などをタイムリーに入手することに役立つメール配信をしています。

ご自身のメールから ce0026@pref.iwate.jp（普及センター組織アドレス）まで**「氏名」、「住所」、「電話番号」**を送信していただければ、いつでも登録できます。登録すれば久慈農業改良普及センター（地域 ML）からだけではなく、県（県 ML）からも情報が配信されます。

【二次元コードからも申込みできます】

これまでに県から配信した内容は、次のような内容です。

・農作物技術情報（毎月、号外あり）

・農作物病害虫発生予察情報

・病害虫防除速報（水稲、野菜、果樹、花きなど）

・産地情報 「産地紹介・人物紹介」（毎月）

・県からのお知らせ（イベント案内、研修会案内など）

今後も随時、情報発信していきますので、ぜひご活用ください。

～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【1～3月分の掲載記事】

○産地・産直情報：《中部》産直情報『～地域に愛される産直～産直ともちゃん（遠野市）』
《大船渡》釜石市の新たな特産品！クッキングトマト「すずこま」（かまとまちゃん）

○人物紹介：《奥州》地域を担う若手野菜生産者　金ケ崎町　阿部光平さん
《久慈》栃元慎治さん　久慈市の黒毛和牛農家のホープ

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します。
下記の URL、または右の二次元コードからご覧ください。
https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html

久慈農業改良普及センターfacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。
下記の URL、または右の二次元コードからご覧ください。
https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/